

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科		
科目名称 [英語名称]	環境植物論 [Environmental Botany]			実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	
科目コード	710062	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	3年次
教員氏名	河野 耕三			学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP1(2)		
授業概要	本授業では、長い時間をかけ進化してきた植物の環境との関係を生理・形態・環境適応・生態・分類学的な視点からの学びを通じて、植物に関わる専門職業人としての基礎知識を養うことを目指している。また、世界の植物群系(Biome)を形成する植物たちの巧妙で不思議な環境適応の姿を、環境との関係において数多く実証的に見ていく事により、学際的認識を身につけることを目指している。多くの植生調査で得た具体的な写真や資料を多く引用していきたい。						
関連する科目	植物学や環境科学、植物生態学は本授業の履修前に受講しておくことが望ましい。						
授業の進め方と方法	毎回、授業内容に沿って作成された資料を基に紹介・解説・質疑応答を取り込んだ授業を展開する。資料は、多くの植生調査研究で得た具体的な経験、集めた写真、資料等を取り入れる。特に、学生に対する発問や学生からの質問には随時対応するよう心掛ける。理解状況や授業に対する学生からの要望等を把握し、併せてレポートの書き方、表現力の学習を兼ねたレポートの提出を求める。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地質時代の気候の変遷と植物の適応進化</li> <li>2. 植物の体の特徴</li> <li>3. 環境に対する適応形態</li> <li>4. 環境に対する様々な生育様式 その1</li> <li>5. 環境に対する様々な生育様式 その2</li> <li>6. 植物の形態から種を見分ける視点</li> <li>7. 植物群落の相観と区分</li> <li>8. 植物集団のとらえ方(植物社会学)</li> <li>9. 植物群落の構造・機能・立地</li> <li>10. 気候帯に対応する植物と植物社会(熱帯雨林～亜熱帯林)</li> <li>11. 気候帯に対応する植物と植物社会(東アジアの暖温帯林)</li> <li>12. 気候帯に対応する植物と植物社会(温帯林)</li> <li>13. 気候帯に対応する植物と植物社会(亜寒帯林)</li> <li>14. 気候帯に対応する植物と植物社会(高山植生)</li> <li>15. 非成帯的ハビタットに成立する陸域・水域の植物と植物社会</li> </ol>						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現存する植物を地史的、進化的、環境適応、形態分類的な視点から考える力が身につく。</li> <li>2. 現在、地球上には様々な立地環境に対応し分化した多様な植物種が生育し、人間との関係性を含めた多様な植物社会を形成していることを、生態学的、植物地理学な立場から理解できる。</li> <li>3. 植物社会の多様性から地球環境及び地域環境を評価する態度が身につく。</li> </ol>						
授業時間外の学修	授業中に次回の授業で使用する資料を配布する。次回の授業までに内容を予習(30分程度)をしておく。また、授業で学習した内容を振り返り、要点を整理(1時間程度)する。						
課題に対するフィードバック	課題に対するレポート、授業内容や方法等に関する感想や意見等でフィードバックする。また、試験については評価後に返却及び解説をする。	評価方法	以下の項目に基づいて評価する 1)レポート……50点 2)試験………50点				
テキスト	毎回資料を配布						
参考書	環境植物学(田崎田忠良 朝倉書店)、植物の分布と環境適応(酒井昭 朝倉書店)、植物形態学テキスト(福原竜夫 福岡教育大学)、植物形態学(原襄 朝倉書店)、植物群落とその生活(飯泉茂・菊池多賀夫 東海大学)、日本の植生(宮脇昭 学研)						
備考	植物社会学を中心とした植生調査研究は1970年から現在まで、宮崎県内はもとより全国、海外では中国をはじめ東南アジア、インド、欧州・中東ではドイツからイランに至る地域での現地実務経験がある。						